

委員会調査(研修)報告書

NO.

令和 8年 6月1日

胎内市議会議長

八幡元弘様

(報告者) まちづくり常任委員会
委員長 増子 達也

まちづくり常任委員会行政視察研修 について、
議会会議規則第110条により、下記のとおり報告します。

調査・研修 日時	自 令和 8年 5月25日 至 令和 8年 5月27日 泊 3日 (3日間)	調査・研修 場所	深谷テラスパーク (埼玉県) 草津温泉スキー場 (群馬県) 川島町役場 (埼玉県)
調査・研修 事項	① 深谷テラスパークについて ② スキー場のグリーンシーズンの活用について ③ KJブランド認証事業について		
調査・研修 出席者(参加者)	議員：増子達也 丸山孝博 渡辺宏行 天木義人 渡辺秀敏 森本将司 佐藤武志 坂上隆夫 渡辺雅茂 平井 孝 市職員：議会事務局 今井孝之		
相手方(対応者)	深谷テラスパーク：深谷テラスパークエリア総括責任者 長江剛 草津温泉スキー場：草津町企画創造課 課長 田中 浩 草津町議会事務局 主任 新田 美幸 (株)草津観光公社 取締役 山本 勇 川島町役場：川島町議会議長 小峯松治 川島町政策推進課 課長 小久保 聡 川島町政策推進課 主幹 牛村 克彦 川島町政策推進課 主査 木村 建太 川島町政策推進課 主事 笛木 知朗		

調査の結果又は概要

1 深谷テラスパークについて

【埼玉県深谷市 5/25 13:15~14:45 (1時間30分)】

深谷テラスパークは、深谷市の農業と観光の魅力を発信する場として令和4年5月28日にグランドオープンし、年間30万人以上の利用者がある。主な施設は

- (1) 大型遊具(2基)やじゃぶじゃぶ池がある「メインエリア」
- (2) ふかや花園駅(秩父鉄道秩父本線)からふかや花園プレミアム・アウトレットまで続く「駅前緑地公園」
- (3) 野菜の収穫体験ができ、併設のレストラン(キューピー(株)が運営)で地元野菜が楽しめる「ヤサイな仲間たちファーム」
- (4) 国内外の有名ブランドや飲食店約130店舗が揃うアウトレットモール「ふかや花園プレミアム・アウトレット」
- (5) 管理棟
- (6) バーベキュー場の「デッキ広場」

(7) 雨天時は調整池として活躍し、晴天時はイベント会場として利用できる調整池広場4団体で構成される「深谷テラスパークエリアマネジメント」が深谷市から指定管理として運営を委託されている。視察時は平日にも関わらず、多くの家族連れが来場し、晴天で気温も高かったため、小学生以下と思われる子どもたちがじゃぶじゃぶ池や大型遊具で遊んでいた。

2 スキー場のグリーンシーズンの活用について

【群馬県草津町 5/26 13:30~15:30 (2時間)】

草津町は温泉が観光の中心であり、令和6年度より草津町の入込客数が初めて400万人を超えた。令和7年度も400万人を超えている。草津町がまちづくりの政策を強く推進してきたのが、入込客数増加の一番の要因である。まずは湯畑の整備、景観の整備や観光名所の新たな作成などを行った。

草津温泉スキー場は、草津町が保有し、指定管理制度に基づき管理運営は、草津町が85%を出資する株式会社草津観光公社が行っている。平成30年に草津白根山の本白根山(もとしろねさん)が噴火し、ロープウェイ、コース、ゲレンデなどが被害を受け、スキー場の全体の約半分が利用不可能となった。冬のスキーだけに特化した施設では運営ができないと判断し、通年運営型の山岳リゾートに舵をきった。平成30年にジップラインを日本で初めて整備した。とても急勾配だったため、当初メーカーからは設置できないと言われたが、地元企業がスピードをコントロールする滑車を開発し、設置することができた。ジップラインは天狗山という小高い山の中腹に位置していてそのほかの施設も天狗山に集中している。

ジップライン以外の施設としては

- (1) パルスゴンドラ:(3つのゴンドラが連なり移動するゴンドラ、運行時は3つ仲良く連なり移動する姿がとてもコミカルに見える、珍しいタイプ、国内では3施設のみ)
※当初はリフトだったのですが、夏に利用するリフトは下りの乗車に許可がないためゴンドラを整備。
- (2) スカイウイング:10mのふり幅のあるブランコ(二人乗り)

(3) クリスタル天（そら）：もともと喫茶店だった施設を全面改装し、標高 1,200m かながめる景色を眺めながら江戸前寿司を提供する。

(4) 展望テラス：テーブル、ソファ、日よけの parasol 付きでくつろげる。

(5) センターハウス：スキー場の入り口であるロッジ

令和 8 年 4 月に新しく整備した（以前のセンターハウスは耐震補強が必要で耐震工事で対応する計画だったが、当時の町長が景観が悪くなるため新しく建設したらどうかと提案、当初 4 年はかかると思われた工事も関係各社の努力の賜があって約 2 年半で終えた）

歴史：「草津温泉スキー場は歴史のあるスキー場で、昭和 23 年に日本で初めてリフトがかけられたスキー場である。

3 K J ブランド認証事業について

【埼玉県川島町 5/27 10:00-11:30 (1 時間 30 分)】

埼玉県川島町は、かわじまブランドを略して K J ブランドとしている。目的は、地域資源を町の魅力として地域住民が再認識し、地域の誇りの象徴として、また、町外に対する認知向上（訪れたい、買いたい、住みたいと思えるような町のイメージ UP）を図るもの。

平成 28 年からプロジェクトを開始してブランド戦略を策定するため各分野の専門家からなる協議会を設置、また町民ワークショップを開催。平成 30 年から本格的にスタートして現在認定は 28 品目である。ふるさと納税の実績にも寄与しており令和 4 年には約 3,600 万円だったふるさと納税が、令和 7 年度には約 8,000 万円と倍以上になった。人気の返礼品としては、いちご、お米、せんべいである。

調査の所見・感想

1 深谷テラスパーク

平日にも関わらず多くの若い家族連れが利用しているのを目にして、プロジェクトが成功しているのだろうと感じた。また、子どもたちが安全で安心して遊べるこのような施設の必要性も感じた。

指定管理料は、年間 5,000 万円であり当初赤字であったが、3 年目で黒字に転換したとのこと（利用料や独自事業の売上で、年間約 200 万円から 300 万円である）。

指定管理料が 5,000 万円であるが、それだけ支払う意義のある事業だと思う。大手食品メーカーがレストランを経営していることにも注目したい。調整池に関しては、設計当初から晴天時のイベント利用を見込んで造られている。主に車のイベントなどで利用されているとのことだが、雨水が入ることで藻が繁茂したり砂が流入したりで清掃に手間がかかるようで課題もある。

当市の施設運営や新たな施設整備について今後の参考としたい。

2 スキー場のグリーンシーズンの活用について

草津町が観光にとっても積極的で協力的であることが、町の観光を押し上げているといった印象を受けた。草津町の観光客の中心層は20代であり、その次は30代男性（おそらくファミリー層（会計時に年齢をカウントしているため推測））であり、若い層がターゲットである。インバウンド誘客については、積極的なプロモーションは行わず、日本人の若い層をターゲットにして「映える」をキーワードに観光地としての発信を行ってきた。

クリスタル天では、2名のスタッフを銀座の有名な寿司店で修業させ、豊洲から直接仕入れた新鮮な魚を提供するといったこだわりもある。

（株）草津観光公社は第三セクターであるが、黒字経営の会社であり指定管理料はもらっておらず、逆に施設使用料を支払っている。直近の施設使用料は、約4億4千万円であり、町もこれを財源に観光事業に再投資している。とても良いモデルケースだと感じた。胎内市の観光にも役立てていくべきであると強く感じた。

3 K Jブランド認証事業について

ブランド戦略を策定するにあたり専門家からなる協議会を設置しているだけでなく、町民の意見も広く聞きながら事業を運営しているところが好印象に感じた。町民が一緒につくり、特産物の良さを認識することにより、新たな広がりを見せていくのだと思う。また、令和5年から第2期K Jブランド戦略として事業の見直しを図っているのが継続して実績を上げているひとつのポイントだと感じた。